

平成29年度 山陽小野田市中学生海外派遣事業 帰国報告書



平成29年8月10日(木)～8月21日(月)

山陽小野田市

目次

中学生海外派遣事業概要.....2

- 1 目的
- 2 派遣先
- 3 派遣期間
- 4 派遣生徒及び引率者
- 5 スケジュール

活動日誌.....4

ホームステイ報告及びホストファミリーの紹介.....8

・派遣生徒

・引率者



◆中学生海外派遣事業概要

1 目的

山陽小野田市と姉妹都市モートンベイ市との交流を図り、もって両市の友好親善と相互理解を深めるとともに、広い視野と国際感覚を持った次代を担う人材を育成することを目的とする。

2 派遣先

オーストラリア クイーンズランド州 モートンベイ市



3 派遣期間

平成29年8月10日(木)～8月21日(月) 12日間

4 派遣生徒及び引率者(敬称略)

おりぐち	かのん	小野田中学校 3年	かとう	あやの	厚狭中学校 3年
折口	花音		加藤	綾乃	
かわもと	ひろあき	埴生中学校 3年	しもだ	あすか	厚陽中学校 3年
河本	大明		下田	明日香	
なかの	ひより	高千帆中学校 3年	はまの	かなつ	竜王中学校 3年
中野	陽梨		濱野	伽捺	
ひろた	えりこ	厚狭中学校教諭			
弘田	恵理子				



5 スケジュール

【事前研修】

第1回オリエンテーション	6月23日(金)18:30～	市役所3階大会議室
第2回オリエンテーション (宿泊研修)	7月25日(火)13:30～ 26日(水)12:00	きらら交流館1階研修室
壮行会	8月7日(月)16:00～	市役所3階第2委員会室
第3回オリエンテーション	8月7日(月)壮行会終了後	市役所3階第2委員会室

【オーストラリア派遣期間】

8月10日(木)	厚狭駅～福岡空港(出発)～チャンギ空港(シンガポール、乗継)～
8月11日(金)	ブリスベン空港(到着)～モートンベイ市へ レッドクリフハイスクールにて歓迎式、終了後校内で過ごす
8月12日(土)	ホストファミリーと過ごす
8月13日(日)	ホストファミリーと過ごす
8月14日(月)	ホストファミリーと過ごす(祝日:Brisbane show day)
8月15日(火)	オーストラリア動物園
8月16日(水)	スカーバラ小学校訪問(※1)
8月17日(木)	ハンピーボング小学校訪問(※2)
8月18日(金)	25周年記念セレモニー、レッドクリフハイスクールでさよならパーティー
8月19日(土)	ホストファミリーと過ごす
8月20日(日)	ブリスベン空港(出発)～チャンギ空港(シンガポール、乗継)～
8月21日(月)	福岡空港(到着)～厚狭駅

※1 スカーバラ小学校は高千帆小学校の姉妹校

※2 ハンピーボング小学校は赤崎小学校の姉妹校

【帰国後】

帰国報告会	9月25日(月)17:00～	市役所3階大会議室
-------	----------------	-----------



活動日誌

日付	報告者	活動内容
8/10 (木)	加藤 綾乃	福岡空港から出国し、シンガポールのチャンギ国際空港に到着しました。チャンギ空港では、「バタフライガーデン」に行きました。パイナップルの上に乗っている蝶を見たり、手に蝶を乗せたりして楽しかったです。初めて、シンガポールドルで英語を使って一人で買い物をしました。明日、オーストラリアに着くのが楽しみです。
	濱野 伽捺	今日はいよいよオーストラリアに出発です！！自分がオーストラリアに行くという実感はないですが、本当に楽しみです。初の国際線で、驚くことがたくさんありました。CAさんも民族衣装のような制服で、たくさんの映画が機内で見れました。フライト時間が長かったけど、暇なく過ごせました。
8/11 (金)	中野 陽梨	学校についてから、バディーと一緒におやつを食べました。最初はまったく英語が聞き取れなくて、「Sorry…」と何度も言いました。でも、私の下手な英語を一生懸命聞き取ろうとしてくれて、とても心が温まりました。バディーの家族はとても優しく親切で、少し緊張がとけました。夜はペットの”ローリ”(犬)の散歩に姉とダディーと行きました。夜だったので星が見れてとてもきれいでした。
	河本 大明	今日、ホストファミリーと初めて会いました。ホストファミリーからとても優しく接していただき、少し緊張がほぐれました。夕方にはバディーの Byron のラグビーの練習を見に行きました。とても迫力があり、おどろきました。
8/12 (土)	折口 花音	午前中はホストファミリーと海の近くのカフェに朝食を食べにいきました。その後、「レッドクリフボタニカルガーデン」に行きました。そこはコウモリが沢山いるところで凄い数のコウモリがいてビックリしました。夜はラグビーの試合を派遣生全員とホストファミリーと観戦に行きました。ラグビーを見たことがなかったのでルールが分らなかったのですが、観戦している周りの人やバディが丁寧に教えてくれたので楽しめました。その後、フィールドに入り選手と写真を撮ったり、サインをもらったりしました。とても貴重な体験をしました。
8/13 (日)	下田 明日香	今日は、電車に乗ってブリスベンのサウスバンクというところに行きました。電車で1時間くらいかかりました。自然がいっぱいだったし、乗っていないけど観覧車とかもあって、すごく広かったです。フェリーに乗ろうとしたけど、人も多く、時間もなかったので乗れませんでした。ご飯が、揚げ物ばかりで太りそうです(汗)。でも、楽しい1日でした！！

日付	報告者	活動内容
8/14 (月)	濱野 伽捺	今日、電車でプリズベンに行きました。行ってすぐに昼食を食べました。昼食では焼きそばを食べました。おいしかったです、量が多すぎて食べ切れませんでした。それからは、街を観光しました。夕方になると、川を通るフェリーに乗り、夕日と景色を楽しみました。風がとても気持ちよく、日が暮れるまで乗っていました。降りた後の夜景も最高でした。
8/15 (火)	加藤 綾乃	今日は、レッドクリフハイスクールの生徒と一緒にオーストラリア ZOO に行きました。ヘビにコアラ、ワニ、鳥などたくさん動物がいました。カンガルーのエサやりをしたり、コアラをさわったり、迫力あるワニのショーを見たり、日本ではできないことを体験することができました。バディ以外の生徒とも関わることでできて楽しかったです。家に帰って、日本から持参した習字と折り紙を Amber としました。すごく喜んでくれました。
8/16 (水)	折口 花音	スカーバラ小学校を訪問しました。生徒はとてもフレンドリーで積極的に話しかけてくれたのですが、大興奮していてとても早口だったので聞き取るのが少し難しかったです。休み時間の時移動していると沢山の生徒が日本語で「こんにちは」とあいさつをしてくれたり、知っている日本語で話しかけてくれたのでとても嬉しかったです。全校集会で「あいうえお」の歌を聞きました。とても上手でした。今日は、バディの誕生日だったので、夜バディの友達を呼びケバブのお店に行きました。チョコレートケーキがとても甘くて食べきれませんでした。
8/17 (木)	河本 大明	今日は、ハンピーポング小学校を訪問しました。昼休みにはサッカーやクリケットをして楽しみました。とても楽しい思い出ができて良かったです。ランチにはレッドクリフの高校生と一緒にフィッシュ アンド チップスを食べました。美味しかったです。
8/18 (金)	加藤 綾乃	今日は、姉妹都市としての25周年記念で写真撮影と食事会がありました。モートンベイの市長さんはとても陽気で明るく気さくな方でした。多くの方々に歓迎していただきました。レッドクリフハイスクールでさよならパーティがありました。飾りつけをしてくれたり、パーティをみんなで盛り上げてくれました。私たちは二人羽織を出し物としてしました。みんなが楽しそうに参加してくれて笑いのたえない時間でした。

日付	報告者	活動内容
8/18 (金)	中野 陽梨	<p>学校での最後の授業は、とても楽しくて充実していました。それからビーチへ行って、“25周年記念”のセレモニーがあって、写真撮影やたくさんのサンドイッチを食べたりと、とても楽しかったです。学校に帰ってからは、さよならパーティーがありました。もう、1つ1つがおもしろくて、二人羽織りは最高でした。家ではディナーで、オーストラリア BBQ をしました。とてもおいしかったです。あと1日と思うと本当に悲しくてしかたありません・・・。</p>
8/19 (土)	折口 花音	<p>ホストマザーと妹のスカイと一緒に出かけをしました。昼食でお寿司を食べました。種類は手巻き寿司しかありませんでした。夜はいとこの誕生日パーティーでした。最後の夜なので私はお好み焼きを作りました。大好評で凄い勢いで全部食べてくれてとても嬉しかったです。バディからカンガルーのぬいぐるみをプレゼントでもらいました。バディから「あなたが居ないとさみしい」というメッセージが付いていてとても感動しました。</p>
	下田 明日香	<p>今日は、午前中 Megan にブリスベンのショッピングモールに連れて行ってもらいました。そこで、お土産を買いました。たくさん買ったつもりだったけど、案外安いな、と思いました。でも、まだ全部買えませんでした。午後は Bree のいとこのバースデーパーティーに参加しました。皆、優しくおもしろくて、たくさん笑いました。トランポリンとかで遊んで楽しかったです。家に戻り、ホストファミリーの友人であるという家族とパーティみたいなのをしました。可愛くて、とても癒されました。今日で最後って思うと、とても悲しくてさみしい気持ちもするけど、変な英語でも聞きとってくれたりしたホストファミリーには感謝です！ありがとう。</p>
8/20 (日)	河本 大明	<p>今日は、ホストファミリーとお別れの日でした。僕は日本に帰りたくない気持ちでいっぱいでした。Magnus 家は、みんな優しく明るい家庭でした。お別れときは、ついつい泣いてしまいました。色々な思い出を作ることができてとても良かったです。ありがとう Magnus Family！！</p>
	濱野 伽捺	<p>今日は、ホストファミリーとお別れの日です。帰りたくなくて、迎えのバスに乗るのがとってもイヤでした。今までにないくらい泣きました。本当にお別れが悲しいです。</p>

日付	報告者	活動内容
8/21 (月)	下田 明日香	夜中にチャンギ空港を出発するのはきつかったけど、みんなでお土産を見たりするのは楽しかったです。厚狭駅について時、親の顔を見て安心する反面、まだ残りがかった、という気持ちもありました。けど、この10日間とても充実していてあつという間に過ぎていきました。この派遣事業に参加させてくれたたくさんの方々には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。この事は必ず将来に役立てたいです。
	中野 陽梨	飛行機で何時間も過ごして、新幹線でも移動したりしたので厚狭駅について親の顔を”ああ、帰ってきたなあ〜”と思いました。本当に全てが新鮮で一生忘れない思い出ができました。





小野田中学校3年

おりぐち かのん

折口 花音

1計画 (PLAN)

まず、自分の英語力、英語で会話する力のアップを目標にします。そのために、ホストファミリーなどに積極的に話しかけ、ジェスチャーをあまり使わずに会話しようと思っています。

次に、オーストラリアと日本の違うところをたくさん見つけ、オーストラリアの文化をたくさん目に焼き付けて日本に戻りたいです。そして、他国の文化をみて、感じて、英語力をグンッとアップさせ、出発する前よりも一回り、二回り、それ以上に成長して、帰国したいと思います。

2行動 (DO)

私は積極的に話すことを目標としていましたが、実際には緊張しすぎてなにも話せず頭が真っ白になってしまいました。次の日からうまく伝えようとしてもなかなか伝わらず、使わないと決めていたジェスチャーを使ってしまったのです。それがとても悔しかったので、毎日気になった言い回しや、スラングなどを調べていました。そのため、日に日に会話が聞き取れるようになっていきました。このことから、「やっぱり授業で習う英語だけではだめなんだ。」と痛感させられました。授業で習った英語をしゃべるとホストファミリーから言い直されたりしました。それだけネイティブの英語は大事なんだなとたくさん思わせられました。

3評価 (SEE)

☆90点

私が派遣された 12 日間で感じたことは、「自分の伝えたいことをきちんと伝える」ことの大切さです。派遣されている間、自分の伝えたいことをうまく伝えきれず何度も後悔しました。この時思ったのが、「日本人は周りに対して遠慮をしすぎている」ということです。そして同時に、自分の英語力の低さも感じました。そのため最初は何と言っているのか分からず何も喋る

ことができなかつたのです。なのでこれからは自分の英語スキルを磨き、いつ外国人に会っても落ち着いて話せるようになり、またホストファミリーに会いに行き今回よりもたくさん会話ができるようにしたいと思います。この派遣事業に参加することで、日本との違いを多く見つける事ができ、自分への自信をつける事が出来ました。

みんながくれた、たくさんのもの

もうひとつの家族、たくさんの友達、そして思い出。私はこの 10 日間でたくさんのものをもらいました。この一つ一つが私を成長させ、そしてとてもいい刺激を与えてくれました。

私はたくさんのことに驚かされました。まずは学校。とても印象に残っているのは、生徒たちです。彼らは 1 人 1 人の個性が豊かで、自分を自由に表現していました。ですが仲良くなっていくと、みんなが互いを認め合い、尊重しているからこそできることだと気付かされました。自分を表現することの例として、特に目についたのは「ピアス」です。日本で中学生や高校生が開けていると、あまりよくは思われませんかよね。ですが、オーストラリアではそれが普通なのです。他にも日本と違うところがたくさんあり大きな衝撃を受けました。



ホームステイ報告書

次に交通規則について。一番驚いたのは、乗っている人全員シートベルトの着用が義務付けられていることです。シートベルトを着けていないと、運転手ではなく乗っている人が罰金をとられるそうです。

レッドクリフステートハイスクールの生徒たちはとても気さくに話しかけてくれました。すれ違った生徒たちは私達に、「Hello」や「Hi」と話しかけてくれ、中には日本語で挨拶してくれる生徒もいました。また、ハグなどもしてくれました。ハイスクールの友達がたくさんでき、本当に嬉しかったです。

小学校ではレベルの高い日本語の授業が行われており、すれ違いざまに挨拶してくる子はみんな日本語でした。また、自分の知っている日本語をとても流暢に話してくれ本当に驚きました。

滞在中に出会ったすべての人たちから、たくさんの思い出をもらいました。この貴重な経験のすべては、これからの私を支えてくれると確信しています。そしてモートンベイ市と提携を結んでちょうど 25 周年という素晴らしい年に行けたこと、本当に感謝しています。また、この事業を支えてくださった多くの人に感謝します。本当にありがとうございました。この経験を生かし、積極的な国際交流を心がけ、この山陽小野田市のこと、日本の良いところを伝えていきたいと思います。



私のホストファミリーの Cara 家は、仲がとてとてもよく温かい家族でした。

私のバディは男の子だったので、最初はうまくやっていたいけるか本当に不安でした。ですが、家族のみんなが私にたくさん話しかけてくれすぐに打ち解けることができました。妹の Skye は、私と同じで歌うことが好きだったのでいつも二人で歌っていました。Skye が教えてくれた曲を聴くと、いろいろなことを思い出します。バディの Dean とはなかなか話が弾まず最初はギクシャクしていましたが、いつのまにか仲良くなり私の弟のような存在になりました。いまでは、なんでも話せるような仲です。

ホストマザーの Bronwen は、いつも笑顔で接してくれ英語をうまく聞き取れなかった私を見かねて、ゆっくりとした口調で話してくれ、一緒にふざけあったりしました。ホストマザーのことは「Mom」と呼び、恋愛相談などのガールズトークも楽しみました。ステイしている間は本当のお母さんのように接してくれ、いまでは私の第二のお母さんです！

ホストファザーの Andrew は、仕事の都合上あまり一緒には過ごせませんでしたがとても情熱的で、とても頼りになる方でした。

ホストファザーのことは「Dad」と呼んでいました。Dad は私のことを娘のように接してくれ、一緒にラグビーも見たりしました。Dad も私の第二のお父さんです。



この 10 日間の中で特にバディの誕生日の日が思い出に残っています。バディの誕生日と一緒に祝うことができ本当に良かったなと今でも思います。

振り返ってみると、たくさんの思い出がよみがえってきます。その代わりにたくさんの寂しさもありました。最後のお別れをし、バスに乗り、出発。すると、バディ達は私達の乗ったバスを追いかけてきてくれたのです。その時私は「幸せだ。」と感じました。

私はいつか必ずオーストラリアに戻り、再会しよう、そう思いました。この 10 日間がこんなにもあっという間に時間がすぎってしまったと感じるほど楽しかったのは、ホストファミリーや出会ったみんなのおかげです。私のもう一つの家族、Cara 家。ありがとう、大好き。



ホストファミリーの紹介

Cara家

父 Andrew
母 Bronwen
息子 Dean
娘 Skye



厚狭中学校3年

かとう あやの
加藤 綾乃

1計画(PPLAN)

【目標】

- 自分の語学力、コミュニケーション能力を高める
- オーストラリアの教育の現場を直接見学し、教育事情や問題について知る
- ・自分から積極的に英語で話しかける
- ・日本の文化を伝える
- ・事前に質問したいことを考えておく

2実行(DO)

- ・初めて空港で英語を使って買い物をしました。意外と通じたので、オーストラリアに到着後もできるだけ英語で話しかけるようにしました。3日目くらいから単語だけでなく文で英語が話せるようになってきて話しかけることが楽しくなりました。
- ・日本から持参した山陽小野田市の観光マップや書道、折り紙、浴衣を英語で説明しながら日本の文化について伝えました。上手く伝わったか不安でしたが、興味深く質問してくれたり、部屋に飾ってくれたりして、とても喜んでくれました。
- ・小学校では全員が日本語の授業を受けていたが、中学や高校は選択科目になっていました。オーストラリアで子どもたちが日本語を勉強しているだけでなく、小学生の日本語が上手なことに驚きました。日本語でコミュニケーションがとれた時は嬉しかったです。

3評価(SEE)

- 90点
- 10点分のマイナスは、初めは緊張してあまり話せなかったからです。でも、先生の言葉を思い出し、悔いのないように話すようにしました。
- 今回の経験で、外国人が日本のことをどこまで知っているのか、親しみを覚えてくれているのかがよく分

かりました。日本との言葉の違い、文化の違いを知ることができました。お互いが違いを認めることで、それぞれの国のよさも感じることができました。これからは、さらに視野を広げて、山陽小野田市や日本のことを広い視野で見たり、いろいろな人の考えを聞いてみたいと思います。そのために、もっとコミュニケーションがとれるように語学も学びたいと思います。

もう一度帰りたくなる場所

私にとって生まれて初めての海外は、見るものすべてが新鮮で、貴重な経験の場となりました。オーストラリアのブリスベン空港に到着してすぐ、レッドクリフハイスクールに到着するまでの車の窓から見えるおしゃれな街並みや景色に感動し、これから始まるホームステイ生活に期待が大きくなっていました。



しかし、いざホストファミリーを目の前にすると一気に緊張が高まり、あまり話ができませんでした。ですが、その緊張をバディの Amber と Hayden がほ

ぐしてくれました。ホストファミリーは、「自分の家にいるように楽しい時を過ごしてほしい。」と優しくとても親切に接してくれました。私は、出発前の先生方の言葉を思い出し、悔いのないように話すようにしました。やはり、初めは英語づけの日々に慣れなかったですが、段々と英語で話すことに慣れていきました。

そして、いつの間にか、毎朝目覚めると、おしゃれな色づかいのベッドルームの外から、「よい眠りだった？」と Amber の声がし、それに英語で答え、ホストファミリーの飼っている犬や猫にも英語であいさつをすることで一日が始まる。そんな日々が当たり前になっていました。

ホストファミリーは、日本からの手土産をととても喜んでくれました。山陽小野田市の観光マップを見せると質問攻めにありました。上手く説明できたか不安でしたが、なんとか紹介できました。浴衣を着たり、折り紙や書道も一緒にしました。Amber 家族は、Amber のサッカーの親善試合に出場するため、昨年、鹿児島を訪れたことがあるそうで、とても日本に親しみをもって来ていました。私が説明する日本の文化に興味深く熱心に聞いてくれました。



ホストファミリーと過ごす時間はとても幸せな時間でした。休日には、海やペリカンパーク、ブリスベンの街などいろんなところに連れて行ってくれ、オーストラリアのことを紹介してくれました。ショッピングやバーベキューもし、たくさんの思い出深い楽しい時間を過ごすことができました。

私が、日本との違いを一番感じたのは食事でした。毎食の食事にフライドポテトと炭酸が登場しました。日本のように主食・主菜・副菜の組み合わせがなく、野菜料理が食卓に並ぶことは少なかったです。日本で、たまに食べるファストフードを毎日食べているみたいでした。そんな中、滞在中に2度、サーモンのお寿司を食べさせてもらいました。外国で食べる日本食は何よりもおいしかったです。



また、学校では給食がなく、学食のようなところで食べたり、持参したチキンを歩きながら食べたりする生徒もいました。それに、食べ残した食べ物をあっさり捨ててしまうその光景に何度か驚きました。そこに文化の違いを感じ、日本の食文化の深さに気づき感動を覚えました。

帰国する日、Amber から手紙をもらいました。「いつでもまたオーストラリアにいらっしやい。」と書いてありました。その人柄に感謝の気持ちでいっぱいでした。別れはとても寂しかったですが、「いつでもまた自分の家だと思って帰っておいで。」と言ってくれました。本当に嬉しかったです。Amber とは帰国後も毎日メールで今日あったことなど写真を送ったりして近況報告をしています。



今回のオーストラリア滞在中、学校でも、ラグビー場でも、動物園でも、どこに行っても私たちを多くの方に歓迎していただきました。小学校やハイスクールでは日本語も交えてたくさん生徒とコミュニケーションがとれました。そして、日本ではできないたくさんの経験することができました。言葉や文化の違う環境の中で、改めて日本のよさも実感できました。これからは、広い視野で山陽小野田市や日本のことを見て、多くの人の意見を聞き、自分にできることを考えようと思います。

ホームステイ報告書

日本を出発する前からメールで連絡をしてくださいました。写真を送ってくれたり、気温の情報など親切に教えてくれたりしてくれたので、会えるのが楽しみで、不安なく日本を出発できました。

学校に到着し、ホストファザーが迎えに来てくれ、ホストファミリーの家に行きました。ホストマザーだけでなく、犬や猫やモルモットなどたくさんの家族が歓迎してくれました。

日本からの手土産をととても喜んでくれました。山陽小野田市の地図を見せると質問攻めにあいました。上手く説明できたか不安でしたが、なんとか紹介できました。



浴衣を着てもらったり、折り紙をしたり、書道をしました。興味深く熱心に私のいうことを聞いてくれました。

休日には、海やペリカンパーク、買い物、ブリスベンの街などいろんなところに連れて行ってくれ、オーストラリアのことを紹介してくれました。

ホストファミリーと過ごす時間は本当に楽しく、充実した幸せな時間でした。

帰りには、私の家族一人ひとりにもプレゼントを用意してくれていました。感謝のきもちでいっぱいでした。帰国する日、Amber から手紙をもらいました。「いつでもまたオーストラリアにいらっしやい。」と書いてありました。とても嬉しかったです。「また会いに行きたい。」と思いました。帰国後も毎日、メールで今日あったことなど写真を送ったりして近況報告をしています。



ホストファミリーの紹介

Garton家

父 David

母 Kim

娘 Amber

息子 Hayden



埴生中学校3年

かわもと ひろあき
河本 大明

1計画(PPLAN)

- ・自分の将来への視野を広げる
⇒現地で色々なことを経験し学ぶ
- ・英会話力の向上
⇒色々な人と積極的に話す
- ・日本との文化の違いを発見する
⇒たくさんの事を体験して学ぶ

2実行(DO)

学校や街で会う人やホストファミリー達と積極的に会話をしました。しかし、最初は緊張して上手に話すことができませんでしたし、聞き取る事もできませんでした。

しかし、たくさんの人が話しかけてくれることによって、少しずつ会話することができるようになってきました。自分でも会話が少しでも長く続くとうれしかったです。

文化の違いでは、日本では時間をしっかりと守るが、オーストラリアでは時間にルーズでとてもびっくりしました。そして滞在をしているうちに将来は海外に住みたいと思うようになりました。

色々な人と接していくうちに現地の人達の人柄が好きになり、海外に住みたいと思うようになりました。

3評価(SEE)

☆90点

最初は上手く英語を話すことができませんでした。質問されても“Yes”や“No”などしか言えなくて、すぐに会話が終わってしまったり、自分がやりたいことを上手に伝えられなかったりしたことが10点減点した理由です。

しかし、10点減点はしましたが、このホームステイをしっかりと充実することができました。後半は、しっかりと自分から話しかけることができとても良か

ったと思います。今回の滞在で見つけた課題を克服していけるように頑張っていきたいです。

★たくさんの出会いと経験

僕は今回の滞在で色々な人と会うことができました。僕にとっての何よりの出会いはやはり、ホストファミリーとの出会いだと思います。ホストファミリーは、僕にいつも温かく、明るく接してくださいました。



最初は、緊張して話すことができませんでしたが、ホストファミリーはいつも笑顔で接してくださいましたおかげで徐々に慣れていくことができました。気づいたら、僕はいつも笑顔でいることができました。そして平日は、レッドクリフハイスクールに行きました。生徒は皆明るく笑顔でいっぱいでした。廊下ですれ違った時でも元気に「こんにちは～」など挨拶をしてくれました。日本語の授業に入った時でもオーストラリアの事を色々教えてくれました。皆と話していると自分まで笑顔になれてとても楽しかったです。また、小学校に訪問したときに昼休みにサッカーやクリケットをして楽しみました。生徒のみんなは、とても活発で元気がよかったです。昼休みが終わった頃

には僕は、とてもヘトヘトでした。そして、サッカーと一緒にした男の子に手紙をもらいました。とても嬉しかったです。休日には、ホストファミリーが色々なところに連れって行ってくださいました。そのときにも、「どこから来たの?」「オーストラリアはどうだい?」などたくさんの人に声をかけられました。オーストラリアの人はみんなフレンドリーだなあと思いました。街で歩いているときでもたくさんの人に声をかけられたたくさんの人と話すことができました。すごく良い経験になったと思います。今回の滞在でホストファミリーやレッドクリフハイスクールの生徒達、小学校の生徒達色々な人と会うことができました。これらの出会いを大切にしていきたいです。今回の滞在中で学んだことや経験をこれからの生活にしっかりと活かしていきたいです。そして、これからの生活でも人との出会いを大切にしていきたいです。



ホームステイ報告書

僕のホストファミリーは、いつも明るく、温かく接してくれました。ホストファザーの Brett はいつも明るくおもしろい人でした。Brett と話している自分はいつも笑っていてとても楽しかったです。ホストマザーの Sandra はいつも僕の体を気にかけてとても優しい人でした。Sandra が作る料理はとても美味しかったです。

そしてバディーの Byron は明るくフレンドリーな人でした。僕はいつも Byron とテレビゲームやスクーターなど色々な遊びをしました。Byron と一緒にいるととても楽しかったです。みんなといると自分はいつも笑っていました。



ホストファミリーと過ごした日は、今でも忘れられません。休日には、色々な所に行きました。ビーチやショッピングセンターにも行きました。ビーチはとてもきれいでした。



ショッピングセンターでは、Byron と一緒にゲームセンターで遊びました。カーレースや UFO キャッチャーなどたくさんの事をしました。今でも忘れることのできない思い出です。夕食にそうめんをつくった日もあります。皆、「美味しい」と言ってくれて食べてくれました。とてもうれしかったです。最後の休日には、オーストラリアのお土産をもらいました。その中には、Byron が通うラグビーチームのシャツと滞在中にホストマザーが撮ってくれた写真をアルバムにしてくれていました。僕はもらった瞬間に涙があふれてしまいました。ホストファミリーの皆、僕をととても温かく受け入れてくださいました。僕はおかげでいつも明るく楽しく過ごすことができました。ホストファミリーとの思い出はたくさんありすぎてここに書ききれません。お別れするのは、とってもさみしかったです。別れの時、ホストファミリーみんなが「いつでも帰っておいで」と言ってくれました。次会うときは成長して必ず会いに行きます。

ありがとう Magnus Family !!



ホストファミリーの紹介

Magnus家

父 Brett
母 Sandra
息子 Byron



厚陽中学校3年

しもだ あすか

下田 明日香

1計画(PLAN)

今回の海外派遣で達成したい目標は、2つあります。

1つ目は、現地の人と積極的に話し、コミュニケーションを取ることです。2つ目は、オーストラリアの文化や習慣などを学ぶことです。そのためにも、たくさんの人と会話し自分の語学力を高めたいです。また、将来のことも視野にいれ、ステップアップできたな、と思える派遣事業にしたいと思います。

2実行(DO)

とにかく、学校とかで会った人には「Hello!」とか「Hi!」とか声をかけました。自分は英語が得意ではないし、うまく聞きとれないと思ったので、一生懸命聞くようにしました。現地の方々は、とても優しくゆっくり言ってくれたり、私の下手な英語を聞きとってくれたりしました。

最初は全く聞きとれず、自分の言いたいことが伝わらなかつたりしたけど、最後のほうは、少しずつ英語に慣れることができ、自分の言いたいことが伝えられるようになりました。また、ジェスチャーも使うことによってコミュニケーションがとれたりしたのでよかったです。

3評価(SEE)

<90点>

10点減点した理由は、会話で自分の気持ちを上手く伝えられなかつたり、翻訳に頼ってしまったからです。また、自分から話しかけ、会話に発展させることができなかつたからです。

将来、英語は必要になってきます。なので、もっとたくさんを身につけ、通用する英語力にしていきたいです。それに、今回のように様々なことにどんどんチャレンジしていきたいです。

★様々な経験を通して

私は、オーストラリアに行ってきたたくさんのことを経験し、たくさんのことを学びました。

10日間というのは、長いようで短く、あっという間に過ぎていきました。



行く前は、すごく心配で10日間も過ごせるのか不安でした。しかし、オーストラリアの人はとても優しく、特にホストファミリーは私にとってもよくしてくれました。私の英語力はかなり低いはずなのに、うまく聞きとってくれたりして、とても優しくうれしかったです。レッドクリフステートハイスクールに行った時、最初の授業は地理でした。クイズをしたけど、まったく分からず「Sorry.」しか言えませんでした。しかし、生徒のみんなはすごく優しく、私が焦っていた時、優しくほほえんでくれたりしました。8年生の日本語の授業に参加した時、私とペアを組んでくれた男の子が、私のことを覚えてくれていて、学校で会った時、手を振ってくれたりしました。また、学校に行く最後の日は、チューイングキャンディーをくれてとてもうれしかったです。

小学校にも行きました。主に日本語の授業に参加しました。「こんにちは」とか、とても上手にしゃべって

いてすごいなあと思いました。1つ目の小学校は、スカバラ小学校でした。1年生が、日本語で歌を歌っていてすごびっくりしました。私のバディの妹も1年生で、会った時、手を振ってくれて抱きついてくれたのでごくうれしかったです。6年生の子としたラグビーやおにごっこも楽しかったです。

2つ目の小学校は、ハンピーボング小学校でした。とてもフレンドリーな子達ばかりで、すぐに



仲良くなれました。6年生の授業に参加させていただきました。ノートを持っていなかったから、白い紙を持ってきてくれて、すごく優しさを感じました。音楽の授業では、ラップの授業をしていて、すごびっくりしました。日本でもやってほしいです(笑)。

最後は、コンピュータールームに行きました。そこでは、数学と英語を選べました。私は数学を選びました。しかし、中3で学習する「√」(ルート)をしていて一番びっくりしたことでした。小学生なのに、勉強は難しかったです。

たくさんのことを体験しましたが、やはり日本人とは違い、とてもフレンドリーですぐに仲良くなれる子達ばかりでした。お別れパーティーで、私達の出し物だった「二人羽織」はとても好評で、盛り上がることができました。

習字はできなかったけど、ホームステイ先でバディと一緒にすることができたのでよかったです。

お別れの時、「泣かない」と思っていた私ですが、やはりお別れとなると悲しくなりすごく泣いてしまいました。バディもバディの妹と弟も、ホストファザーも泣いていて、よけいに泣いてしまいました。ホームシックを心配していたのに、その逆でした。

今回、この派遣事業に参加することができ、本当によかったです。このような素晴らしいことを企画して下さった方、また、私を選んでくれた方、私を優しく送り出してくれた家族など、たくさん

の方に感謝の気持ちでいっぱいです。このことを将来活かせるように、これからもたくさんの方にチャレンジしていきたいです。本当にありがとうございました。



ホームステイ報告書

ホストファミリーの方々は、とても優しくて温かい方たちでした。ホストマザーの Megan はとくに優しくかったです。買い物などでも、必ず「これ食べれる？」などと聞いてくれ、ホームステイ中に私の嫌いな食べ物は出てきませんでした。本当に優しい方だと感じました。ホストファザーと本格的に話したのは、ホームステイ2日目の夜でした。それまでなかなか会わなかったけど、話してみてもとてもおもしろい方だと感じました。妹の Charli と弟の Lincoln は会ってすぐなのに本当の妹たちに思えました。バディの Bree とはあんまり話せなかった気がします。でも、朝ごはんとかでトーストを焼いてくれたりしてうれしかったです。

休日には、たくさんの場所に連れて行ってくださいました。最初の休日は、Bree の祖母とその妹さん、それに Bree の曾祖母がビーチに連れて行ってくださいました。アイスも買ってくださいました。ビーチには、トランポリンや木に登れる場所などがあってびっくりしました。次の休日は、Palmer 家全員で、ブリスベンのサウスバンクに連れて行ってくださいました。遊園地でもないのに観覧車があることに驚きました。月曜日は祝日でした。なので、Megan、Bree、Charli、Lincoln と一緒に、またまたビーチに。でも、この前とは違う場所でした。

本当に本当にきれいでずーっと居たい気分でした。海に足をつけたけど、やはり冷たかったです。



木曜日に Bree と一緒に習字と折り紙をしました。「いぬ」と「あい」を書きました。とても字が上手でした。折り紙は色々なものを折りました。とても楽しんでくれたのでうれしかったです。

他の日には、「おすしが食べたい」と言ったら、スーパーマーケットに連れていってくれて、おすしを買ってくれました。また、「キットカット残ってる？」と聞いたら、なかったからといってその日の夜、私にキットカットをくれました(笑)。本当に優しくて温かい家族でした。

Bree は私の 2 つも下なのに、お手伝いとか妹たちの世話をしているすごいなあと思いました。ホストファミリーと過ごす最後の休日。あっという間にきてしまいました。この日は、前々からお土産を買いたい、と言っていたので、ショッピングセンターに連れていってくれました。おすすめのお土産とかを教えてくださいました。Megan は、私がお土産を選びにくいからといって、Bree と妹たちに別のところに行っていてと言ってくれて、本当に優しい人でした。午後は、Bree たちのいとこのバースデーパーティーに行きました。とても広い家で、犬 3 匹、にわとり数匹がいて、トランポリン、ふわふわドームなどあって、本当にびっくりしました。まだまだ書き足りませんが、10日間というのはあっという間ですぐに過ぎていきました。本当に本当に良い経験ができました。また、オーストラリア、クイーンズランド州、モートンベイ市に行きたいです。また会いましょう。私の大好きなもう 1 つの家族「Palmer 家」。



ホストファミリーの紹介

Palmer 家

父 Craig
母 Megan
娘 Bree
娘 Charli
息子 Lincoln



高千帆中学校3年

なかの ひより
中野 陽梨

1計画 (PLAN)

- ・英語の語学力を高める
- ・現地へ行って、少しでも英語を身につけ会話ができるようにする。
- ・日本文化を体験させてあげたりして、お互いに文化を伝える。
- ・達成するためには、自分から積極的に行動して、何事にも興味をもつ。
- ・会話の中でジェスチャーを使い意思疎通ができるようにする。

2実行 (DO)

- ・学校で習った英語をフルで使ったこと。
- ・分かる単語をたくさん発言して、相手に伝わるまで自分なりに会話を工夫したこと。
- ・たくさんの人とあいさつを交わしたこと。

最初は焦って会話ができなかったけど、日がたつ頃には聞き取ることができて下手な英語も少しは上手になったと思う。1つ1つが自分にとって新鮮で何かに挑戦したとき、成功すると本当に嬉しかったし、感じたことのない感覚があった。

3評価 (SEE)

【90点】

マイナス10点は、会話の中で意味が分かっているのに、次の言葉がなかなか出なかった。ホームステイ先の家で、もう少し自分から積極的に話しかければよかったと思ったから。

自分は、現地で「思った以上に会話ができる」と思うことがたびたびあった。それは、みんなが親切に伝わるまで工夫して会話してくれたからだと思う。だから、感謝の気持ちを常に忘れず、これからもっと勉強して、もっと英語が上手になるように一生懸命勉強する。そして、今回の経験で得た知識を自分の将来へとつなげていく。

感謝 ~優しさと笑顔~



今回のオーストラリア派遣事業は、私にとって刺激の強いものとなった。そして、この10日間は本当に楽しくて、正直まだ物足りないと思うほど充実したものだ。

最初は自信がなくて、英語の会話が本当に難しかったが、私が「I can't talk English well.」と言うと、みんながゆっくり伝わるまで、親切に話しをしてくれたので、本当に、本当にうれしかった。そのおかげで、英語を上手に話せなくてもジェスチャーを踏まえての会話は簡単になり、会話を聞き取れるようになった。こうした面では、私自身、成長を感じたところでもある。



オーストラリアの人々はみんな優しく、気さくで、思っていた以上にリアクションが大きくて、会話をするのが楽しかった。だから派遣中は、常に、自分から会話をしてみたいという好奇心になった。学校では、主に日本語の授業に参加した。日本にまつわるクイズやひらがな BINGO というものをしたが、オーストラリアの人々が日本になじんでいたことにビックリした。

他にも、私たち日本人に何人かの生徒は「こんにちは！」とあいさつをしてきてくれて、会話はできなくてもあいさつと笑顔は世界共通だということが実感できた。

オーストラリアの生活を有意義に過ごせたのは、出会った全ての人の優しさのおかげだと思う。

この経験で得た沢山のものを自分の将来の夢につなげ、更に成長していきたい。

最後に、この派遣事業に参加することにあたり、このような機会を与えてくださった全ての方に心より感謝いたします。



ホームステイ報告書



私のホストファミリーの Petri 家のみんなは、本当に優しく、家族のように温かく接してくれました。

ホストマザーの Leisa は毎日、体調を気づかってくれたり、私の要望に1つ1つ答えてくれて、本当に一番お世話になりました。私は、彼女が作ってくれたランチのサンドイッチが大好きで、それにいつも「にこちゃんマーク」を描いてくれていて、ランチボックスをあけた時に見るのが毎回楽しみになっていました。

ホストファザーの John は仕事が忙しくて、日中は会うことが少なかったけど、休日には、ブリスベンシティやオーストラリアが一望できる山やフリーマーケットがある場所に連れて行ってくれました。



バディーの姉の Sarah は大学生で、家に帰ってくると持ち前の明るさで、いつも会話をはずませて笑わせてくれました。ショッピングモールへ行った時には、自分が欲しいと言ったものを一緒に選んでくれたりして、本当の姉のように接してくれました。

そしてバディーの Madalin は、とても優しく、英語が下手な私のサポートを一番親身となってしてくれました。彼女とは本当にたくさんの思い出があります。夕食を食べ終わって、2人で映画を見たり、宿題をしたり、絵を描いたり、互いの国の話しをしたり、本当に素敵な時間を過ごしました。Madalin には一番感謝しています。

Petri 家には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。そして、一緒にすごした日々を一生忘れません。私のもう1つの家族である Petri 家のみんなにはいつか近い将来、自分が成長して会いに行きたいです。本当に私にとってかけがえのない存在です。



ホストファミリーの紹介

Petri家

父 John
母 Leisa
娘 Sarah
娘 Madalin Fermaor
犬 Loli



竜王中学校3年

はまの かなつ

濱野 伽捺

1 計画 (PLAN)

今回の海外派遣事業にあたっての目標は、自分の英語力を高める、現地の人達とコミュニケーションをとる、オーストラリアを肌で感じる、ということの3つです。自分の英語がどこまで伝わるかどうかは分からないけど、恥ずかしがらずに自分から積極的に話したいと思います。それと同時に、現地の人達とコミュニケーションをとる、オーストラリアを肌で感じたいと思います。そして、日本に帰るときには自分に自信を持ち、胸をはって帰ってこられたらいいと思います。

2 実行 (DO)

恥ずかしがらずに、会う人にあいさつをたくさんしました。日本人がめずらしいからか、レッドクリフとスカーバラとハンピーボングの生徒が日本語で「こんにちは」と話しかけてくれたり、本当にフレンドリーで「Hi!!」「Hello!!」と話しかけてくれて、本当にうれしかったです。ホームステイしていた街の人にも話しかけると、「滞在を楽しんでね!」と言ってくれました。話しかけた中で、1回で言いたいことが伝わったことは少なかったですが、相手の人も何が言いたいかを真剣に聞いてくれて、すごくありがたかったです。

3 評価 (SEE)

【90点】

10点減点した理由は、電子辞書に頼ってしまったことです。分からない単語を調べるということは大切なことだけど、それを使うことが多かったことに後悔をしています。しかし、使っていたのは主に最初の1日、2日で後は頑張って、自分の知っている単語で話して楽しめたので良かったです。今回のホームステイで将来への視野がとっても広がったので、1つの方向から物事を見るのではなく色々な方向から物事を見て、将来の夢に1つずつ近づいていきたいと思います。

★つなげる-10日間と私の未来-

オーストラリアでの10日間。それは、本当にあっという間でした。あっという間に感じたのは、時間も忘れるほど楽しかったからだと思います。



初日は、まだ耳が英語に慣れず、本当に何を言っているのかが分かりませんでした。それで自信を無くし、“自分から積極的に話す”ということをやめていたのに、相手の人が話しかけてくれないと話せませんでした。そのことを出来ない自分が本当に悔しくて涙を流すほどでした。しかし、『出来ない』『ダメだ』と思っていたら、あっという間に10日間が終わると思い、伝わるかどうかは分からないけど、ジェスチャーを交えて話してみると伝えることが出来ました。たったそのことだけで私は自信を持つことができました。それと同時に何かを伝える大切さを思いました。

バディの Stevie と一緒に通ったレッドクリフステートハイスクールは「自由な学校」だと思いました。日本ほど、校則が厳しくないというのがあると思いますが、みんなが伸び伸びと学校生活を送っているような気がしました。学校で普通にスマートフォンを使ったり、朝学校に行って普通にオ菓子を食べたりと、日本とは違う習慣がたくさんありました。しかし、ただの自由な場所

ではないと気づきました。私が思うには、個人個人が自分の個性を表現しているのではないかと思います。レッドクリフステートハイスクールだけでなく、スカーバラ小学校でも、ハンピーボング小学校でも、生徒と話す、みんな周りの人に流されず、自分の色をきちんと持っていました。しかし、みんなが仲良くできているのは、互いを尊重し、認め合っているからだと思います。自分の個性を表現するということは、とても大切だと思いました。

レッドクリフ、スカーバラ、ハンピーボングでは、日本のように机にかじりついて授業を受け、ノートにたくさん書くということがありませんでした。レッドクリフステートハイスクールでは、一人ひとりがパソコンを持ってきて、それで授業を行いました。スカーバラ小学校では、iPad で日本語を勉強できるアプリを使い、ゲーム感覚で日本語を学んでいました。それが、学校内で一番驚いた日本との違いです。

どの学校の生徒も、歩いていると「こんにちはー」と挨拶をしてくれました。昼食の時には日本語の教室にたくさんの方が来て、とってもにぎやかな昼食になりました。

たくさんの方々と触れ合ったことで、オーストラリアのことをより深く知ることができました。行く前に知っていた常識的なことだけでなく、ホームステイしなければ気づかないことばかりでした。ここには書き収められないほどの思い出ができました。貴重な体験ができたことに本当に感謝です。



ホームステイ報告書

ホストファミリーの6人は本当に優しく、明るい人達でした。

Mother は私に「元気?」「大丈夫?」といつも気にかけてくれました。バディーStevie の妹が3歳なので、その子の本で基本単語を覚えてくれたりして、本当のお母さんのようにずっと優しく接してくれました。Father は仕事に行っていてあまり話すことができなかつたけど、本当に優しい人です。私のバディーの Stevie は、日本のアニメが好きで、主人公の絵を描くほどでした。その絵は本当に上手で私が周りの人に言ってしまうほどでした。アニメを通じて、日本のことが好きで、日本語が上手でした。少し苦手な日本語はあるけど、ひらがなはゆっくりと読めます。Stevie の妹はシャイで、初めて会った時は、私について来るだけでした。しかし、すぐ私と一緒に遊ぶようになりました。本当にかわいくて、私の本当の妹のようでした。Grandparents はカヌーをしていて、朝早くに2人で出かけていました。Grandmother は特に明るく、朝、部屋からとっても大きい音の音楽が流れていて、朝からノリノリです。Grandfather は、Google 翻訳で日本語を調べたり、私に聞いたりして日本語を話していました。みんな音楽を聞くのが好きでした。

Mother に「好きなシンガーは誰なの?」と聞かれたので、私の大好きなメンバーを紹介したら、はまってくれたのでうれしかったです。

寝る前に Stevie と一緒に映画を見ました。4回見たのですが、4回とも日本の映画でした。「本当に日本が好きなんだな」といつも思いました。ホストファミリーへのお土産は、日本のお菓子と浴衣などでした。浴衣を着せてあげると、とっても喜んでくれたのでよかったです。



オーストラリアで過ごした10日間は、本当にあっという間でした。何日目かも忘れるほど、時間のことを忘れて楽しんでいました。お別れするのは本当に悲しかったけど、「必ず帰っておいで」と言われ、「必ず帰ってくる！」と言ったので、いつか自分1人で帰れるようになるその日まで、頑張ります。帰った今でも、とても会いたいです。

10日間ありがとう。私のもう1つの家族。必ず帰ります。



ホストファミリーの紹介

Toon家

父 Stephen

母 Jamie

娘 Stevie

妹

祖父

祖母



引率者
厚狭中学校教諭

ひろた えりこ
弘田 恵理子

中学生海外派遣事業 帰国報告書

厚狭駅に朝6時半に集合し、出発の記念撮影をしたあと、生徒たちはこれから始まる12日間の研修に胸を高鳴らせながら新幹線に乗り込んだ。福岡空港を午前10時に離陸し、シンガポールに現地時間の15時に到着した。シンガポールの空港で約6時間の待ち時間、シンガポールからブリズベンまで約8時間のフライトという長い移動時間を経て、翌日の現地時間朝8時半にブリズベン空港に到着した。移動中、生徒たちはお互いのホームステイ先の情報を交換したり、客室乗務員や空港スタッフの英語の質問に答えたりと、現地での研修に向けて良い心の準備ができていた。研修時、オーストラリアは冬のシーズンだったが、最高気温が日中30度を超える日もあった。例年よりも暑い冬であったらしい。送迎でお世話になった現地の旅行会社の方からは、紫外線は日本の5倍ほど降り注ぐため、郊外研修では帽子、サングラス、日焼け止めクリームの準備をするように言われた。朝や夜は冷え込むため、カーディガンなど体温調節しやすい上着が必須であった。



空港に到着した後、チャーターしたバンに乗り込み、40分ほどかけてレッドクリフステートハイスクールに向かった。到着すると、この派遣事業を担当して下さるライリー先生、日本語の授業を担当するベネット先生、そして私のホストファミリーで、ハイスクールの地理と歴史を担当するポープ先生が出迎えてくださり、歓迎会が開かれた。歓迎会には先生方と生徒のバディ(山陽小野田市の生徒の学校生活をサポートするホストファミリー先の生徒)たちが参加し、屋外で行われた。バディと生徒の対面式を行い、その後手作りのパウンドケーキが振る舞われた。生徒とバディは事前にメールで連絡を取り合い、情報交換をしていたが、歓迎会では終始緊張した様子だった。



オーストラリアでの滞在中はこのレッドクリフステートハイスクールを拠点として、授業を受けたり、課外授業としてオーストラリア動物園に行ったり、スカーバラ小学校(高千帆小学校姉妹校)やハンピーボング小学校(赤崎小学校姉妹校)へ訪問したりした。レッドクリフステートハイスクールでは学ぶ教科ごとに教室が違うため、朝8時40分に校内のTブロックという棟の前に集合した後、生徒は日課に従って指定された教室へ移動する。学校は道路を挟んで大きく2つに分かれているため、授業の組み合わせによっては生徒も教員も道路にかかる学校専用の歩道橋を移動教室のために一日に何度も往復しなければならない。学校の授業は毎日4コマ

で、8時50分から始まってブレイクタイムとランチタイムを挟んで14時40分に終わる。一つの授業は70分間あるが、金曜日だけは60分授業で、この日の放課後は先生方の職員会議の時間に使用されることが多い。ブレイクタイムやランチタイムには、生徒は家から持ってきたサンドイッチやフルーツを口にしたり、売店で軽食を購入したりする。山陽小野田市の生徒は、初日のブレイクタイムは売店の軽食をごちそうになり、その他の日はホストファミリーから持たされた

お弁当を食べていた。レッドクリフステートハイスクールでは初日と登校最終日に



日本語の授業と地理の授業を現地の中高生と一緒に受けた。どの授業もグループ活動を取り入れ、ハイスクールと山陽小野田市の生徒が協力しながら課題に取り組むように計画されていた。地理の授業ではレッドクリフと山陽小野田市の雨温図を読み取りながら、問題を解いたり、日本とオーストラリアのスポーツや文化についてのクイズに答えたりした。レッドクリフステートハイスクールでは個人のパソコンの持ち込みが許可されており、パソコンを使ってグループの回答や成績を教室前のスクリーンに映し出し、また正解を共有することができた。

日本語の授業では、オーストラリアで使われる略語を学んだ。例えば、あいさつとしてオーストラリアでは“G’ day”と言うことがある。これは“Good day”の略で、他にも“Sorry”の略として、“Soz”、“Australia”の略として“Aussie”と言う。“Aussie”は試合の応援で使われる言葉で Aussie を3回唱えることがオーストラリアの応援の定番らしい。これらの略語を学んだ後、日本語のあいさつもカジュアルに言うときは、略すことがあり、例えば「お元気ですか。」は「元気？」だったり、「ごめんなさい。」は「ごめん。」といったものがあるとハイスクールの生徒に紹介された。これらのカジュアルで略された言葉をハイスクールと山陽小野田市の生徒がグループになって交流した。普段英語でも日本語でも授業で略語を学ぶ機会は少ないが、実際はそれぞれの国で略語はよく使われるので、とても興

味深い授業であった。

訪問した二つの小学校でも日本語教育が行われて



いた。オーストラリアにはLOTE (Language Other Than English)という児童生徒に英語以外の言語を学ばせるための外国語教育政策がある。日本語以外に、フランス語やイタリア語を学ぶ小学校もあるが、スカーバラ小学校とハンピーボング小学校は日本語が選択されていた。スカーバラ小学校では3年生の日本語の授業に参加した。まず、児童はあいさつや出席確認を日本語で行い、日本語の色(赤、青、オレンジなど)や形(三角、四角、丸など)の表現を確認した。その後、確認した語彙を

使って文法に沿って日本語文を作った。児童がノートに書いた文を山陽小野田市の生徒がチェックした。ひらが



なが書ける小学生も何人かいたが、多くの小学生はローマ字表記で作文をしていた。教室を見渡せば、教室のルールが日本語で書かれ、こいのぼりや折り鶴など日本独自のものが飾られていた。さらに教室内で一人1台iPadを使うことができ、調べ学習に使ったり、日本語の問題を扱ったゲームソフトで楽しんだりもしていた。さまざまな工夫とICT技術を使って、児童の興味関心を引き出しながら日本語を教えていた。

他にも、体育や音楽、算数の授業に参加した。山陽小野田市の生徒は英語を話すだけではなく、一緒に体を動かしたり、音楽を演奏したり歌ったりすることで小学生と交流することができた。算数の授業では、小学生で体積の求め方を教えることができた生徒もいた。休み時間は、たくさんの小学生が山陽小野田市の生徒に「こんにちは。」と話しかけ、おにごっこやサッカーを楽しんでいた。小学生

は山陽小野田の生徒に興味津々だった。

これはハンピーボング小



学校でも同様だった。日本語の授業を担当しているキム先生の依頼で、小学生からの日本についての質問に答えた。小学生は積極的に手を挙げて、日本の学校や人気のスポーツ、観光地、生活などについて質問をしてきた。最後に「私の名前を日本語で発音してください。」という児童からの要望が出たので、クラスの児童全員の名前を日本語の発音で呼んであげると大変うれしそうにしていた。

研修中はオーストラリアで人気のスポーツにも触れることができた。まず、クリケットである。クリケットはオーストラリアでなじみの深いスポーツで、夏のシーズンになると公式戦の観戦を楽しむ人が多い。このクリケットをレッドクリフステートハイスクールの日本語の授業時間を使わせていただき、楽しんだ。校内にある芝生の運動場へ移動し、まずハイスクールの生徒がプレイしながらルールを説明してくれ、その後山陽小野田市の生徒が一人ずつ打者として参加した。

クリケットと同様にオーストラリアで人気のスポーツのラグビーも楽しんだ。今年度の研修にはモートンベイ市のラグビーチームであるドルフィンズの試合観戦が日程に組み込まれていた。試合前にはモートンベイ市からドルフィンズのTシャツをいただき、それを着てチームを応援した。また、元ラグビー選手の方がラグビーのルールを説明してくださったり、試合後に市の職員の方が選手と一緒に



に話したり、写真を撮れるように取りはからってくださった。山陽小野田市の生徒はもらったドルフィンズのTシャツに選手からサインをしてもらい大変喜んでいました。

ところで、今年は山陽小野田市とモートンベイ市の友好25周年の記念すべき年である。ハイスクールの登校最終日には、友好25周年を祝うセレモニーに参加した。会場はハイスクールから徒歩15分ほどの海沿いにある施設で、モートンベイ市のサザーランド市長と職員の方々が迎えてくださった。山陽小野田市の生徒はビーチでプロのカメラマンによる記念撮影を行った。市長とも写真や動画撮影を行った。セレモニー中、生徒は緊張した様子であったが、同時に記念すべき年にこの海外派遣事業に参加できたことを大変喜んでいました。その後、藤田市長のお祝いのメッセージが入ったDVDをセレモニー参加者全員で見、山陽小野田市からの記念品披露があった。帰りにはモートンベイ市のロゴが入った帽子や文房具、観光マップなどをいただいた。



セレモニーが終わると、ハイスクールに戻り、さよならパーティーを行った。ハイスクールの生徒がサプライズとして、会場の教室をカラーテープや折り紙、風船で飾り付けをし、拍手で迎えてくれた。山陽小野田市の生徒の中には彼らの心のこもったもてなしに涙する者もいた。今年の出し物は二人羽織と習字を予定していたが、



十分な時間がとれず、二人羽織だけ行った。ハイスクールの生徒が積極的に二人羽織に参加してくれたため、パーティーは大変盛り上がった。

オーストラリアを発つ日は山陽小野田市の生徒全員が別れを惜しんで涙を流した。生徒たちはこの10日間ホストファミリーと過ごし、たくさんもてなしを受けながら、かけがえのない思い出を作っていた。

私もホストファミリーのポープさんご夫妻に大変お世話になった。奥様のページさんはレッドクリフステートハイスクールの教員で、小学校6年生のころに日本でホームステイをした経験がある。ご主人のジョーさんは看護師で、老人ホームに勤務しておられた。お二人ともいつも笑顔で私に接して下さった。ジョーさんは日本語を学んだ経験はないが、私を受け入れている間に、ページさんや私から日本語を学び、積極的にわたしと交流しようと努力して下さった。週末にはグラスハウスマウンテン(Glass House Mountain)やサインシャインコースト(Sunshine Coast)といった観光地に行ったり、ページさんのご両親の家で夕食を楽しんだりした。お二人ともフィットネスジムに通っており、私もボクシングエクササイズに参加させてもらった。グローブをはめ、ジャブとダッシュをくり返すハードなものであったが、リズムカルな音楽の中楽しんで運動ができた。ホームステイ中はいつも私を楽しませようと努力して下さり、日本に帰った今もときどきメールをいただく。

初日の歓迎会では、緊張の中、口数少なくバディと食事をしたが、日が経つに連れ、バディと単語から文で英語を話すことができたり、話すだけでなくジェスチャーを付けて交流することもできたりするようになった。バディだけではなく、他のハイスクールの生徒とも知り合いになり、山陽小野田市の生徒から「Hello.」と積極的に声をかけることもできた。日本へ帰る途中、生徒の口から「絶対またオーストラリアに行く。」とか「将来オーストラリアに住んでみたい。」という言葉聞くことができた。これらのことから、海外派遣事業を心から楽しみ、英語力だけでなくコミュニケーション能力の向上もはかることができたと感じた。ぜひ、この海外派遣事業を自分の将来に生かし、グローバル化を増す社会の中を率先して生きてほしい。最後に、この派遣事業遂行に多大なるご尽力をいただいた山陽小野田市とモートンベイ市の職員の皆様、レッドクリフステートハイスクール、スカーバラ小学校、ハンピーボング小学校の先生方、ホストファミリーの皆様に感謝し、山陽小野田市とモートンベイ市の絶え間ない友好をお祈りいたします。



ホストファミリーの紹介

Pope家

夫 Joel
妻 Paige

編集・発行

山陽小野田市市民生活部市民生活課

〒756-8601

山陽小野田市日の出一丁目1番1号

TEL 0836-82-1134

FAX 0836-83-2604